

雑草の生育を掃除刈によつておさえることが出来る場合は、間作を行わないでパーズフットレホイルだけ単播した方が好結果を得られます。春まきの麦類に間作を行う場合には麦類の播種量を減らし、麦類は完熟に達しない内に、青刈として家畜に与えた方が、パーズフットレホイルの生育は良好です。

一般に、パーズフットレホイルは春早く播種され、秋播き(八月)は条件の良い場合に限つて行われています。

きれいに整地された播種床では反当り約〇・六キロの播種量が丁度よいのですが、整地不十分の場合にはこれ以上の種子量が必要とされます。播種に当つては特別な根瘤菌を接種した方が良い結果が得られます。

(註 わが国では大部分の地帯に根瘤菌が生存しています)

パーズフットレホイルは単播よりも簡単な組合せの混播の方が生育が良いようです。乾草を得るためにはいね科の牧草と混播するのが望ましく、チモシーとパーズフットレホイルを各々反当り約〇・六キロ混播するのが乾草用としても放牧用としても最も理想的であります。土壤状態の良いところでは乾草用として、前例の混播相手のチモシーのかわりにブROOMグラスを反当り約一キロ、置きかえても良く、放牧用としては更にケンタッキーブリウグラス反当り約〇・七五キロを加えても良いでしょう。古い放牧地に追播する場合にはハローを充分にかけ、施肥してから播種しないと失敗することがあります。

(註 わが国の寒地ではチモシー、メドウフェスク、暑熱のつよい暖地ではオチャードグラス、ケンタッキー三一フェスク、ダリスグラス、などとの混播が考えられます)

〇どのような管理をしたらよいか

外部の条件が悪い場合パーズフットレホイルの生育は遅れることがあります。普通、作物間の競合が激しかったり、雑草の繁茂がひどい等の不良条件を取除く場合以外は、播種した年に放牧や青刈はしない方がよいでしょう。従つて、クロバーやルーサン等の他のまめ科牧草と同様に播種した翌年に放牧、または乾草として利用します。パーズフットレホイルの乾草刈取り適期は開花期で、刈倒した牧草は濡れるままでそのまま圃場に放置しますが、乾燥しすぎて葉が粉々にならないように注意します。乾草や生草としての二番刈りも出来ますが、越冬に当つては植物体は多少の生育をせねばなりません。パーズフットレホイルの二番草の生育はルーサンよりも遅いのですが、放牧用としては好ましいものです。それは晩夏、放牧地の牧草が夏枯れで欠乏した時、ルーサンと同じようにパーズフットレホイルの二番草は端境期の牧草として充分に役立つためです。

以上がアメリカにおけるパーズフットレホイル奨励の内容ですが、日本においても相当利用の可能性の-highいことがお判りのことと思います。赤クロバー、ルーサンに代る永年生のまめ科牧草として、酸性地湿润地、あるいは夏枯防止のために、時には普通地でも永年草地の混播用として利用さ

れることを御すめます。栽培上の最も大切なことは、初期生育がおそいので、この時期に他の雑草に負けぬようにすること、このために予め雑草をいためる処置を

草でも豚が飼える

ラデノクロバー利用による養豚の一例

生 田 正 美

北海道のような寒冷地帯において飼料作物を中心とした酪農経営が最も安定した農業形態であることは今更述べる迄もないのでありますが、ではいつたい何故酪農が急速に発展しないのかを考えて見ますと種々な大問題があります。まず第一に日本の酪農は牛乳屋から始まり、そのために乳牛に頼り過ぎた所謂乳牛一辺倒の酪農が非常に多いのではないのでしょうか。

このような経営が行われている以上常に乳価の変動或は一昨年のような深刻な空胎の問題等に脅かされる結果となります。これらを考え合せるとき、大いに反省し改善しなければ決して北海道における酪農は発展し得ないのではないかと思います。これは府県においても考えられることと思えます。

そこで私は乳牛に豚、鶏を加えて多角化し、この三者が一体となり土地との合理的な結合によつてこそ最も安定した酪農経営が確立されるのではないかと確信している

講じ、初期生育を促す肥料を施せば成功いたします。読者の御試作を乞う次第です。(雪印上野幌畜種場在勤)

のであります。

最近牧草を利用した養豚、養鶏が各地で行われ、私もこれに非常な興味と関心を持つておりまして今年には研究の手始めとしてラデノクロバー利用による養豚をテーマとしての経験談の一端を御伝えし皆様の参考に供したいと思つております。

現在養豚は都市周辺において都市の残飯を利用した所謂残飯養豚(一名どぶがい)がかなり大規模に行われておりますが、一般農家においては多くの残飯が得られませんが、どうしても濃厚飼料に依存した養豚が多いので従つて飼料費が高くなり、それに飼料の殆どは煮沸しているので燃料費、それに要する労力費が高み、結局肉豚の生産コストが非常に高くなつていことになりま。そのため肉の価格が左右さ。計画性の乏しい投機的な、土地との結びつき薄い不安定な養豚となるわけでありま。そこでこれらの欠陥をまず改善するため

地域性を利用した養豚であるべきと考え、何処でも容易に栽培できるラデノクロパーと地元において最も生産量の多い馬鈴薯を高度に利用した養豚が最適と考えこの方法を採用した次第であります。

これから経験の内容について説明申し上げますが、その前にわが家の経営概況を申し上げますと次の通りであります。

一 経営概況

① 経営面積

- 水田 四町三反
- 畑 四町
- 採草地 六反
- 放牧地 四反
- 合計 九町三反

② 家畜頭数

- 耕馬 一頭
- 乳牛 六頭
- 綿羊 三頭
- 豚 四頭
- 鶏 八〇羽

二 計画の概要

- ① 規模 豚 二頭(牡、牝)
- ② 種類 中ヨークシャー種
- ③ 生産目標

五月三日購入(生後四〇日) 一月下旬売却
 生体重一頭一〇・二五斤計二〇・二五斤

三 飼料栽培計画

- ① ラデノクロパー反別
 四畝(反収五・六二五斤 五回刈)
- ② 管理
 追肥 過石三・五畝 四月下旬施肥

又私がラデノクロパーを養豚用として選定した理由は次の点からです。

- ① その多収性と栽培容易且つ家畜の嗜好に適し飼料価値が高いこと。
- ② 肉豚の生産費を切り下げること

③ 燃料費、労力費等の経費の節減を図ること。

次に経過について申し上げますと、
 先ず第一表の飼料給与計画は中ヨークシャ一種の飼養標準を基礎として自給可能な飼料及び手持の飼料を主とし入手の容易なものを組合せ、栄養分が片寄らぬよう、多種類の飼料を取り入れて計画を立てました。

第二表は実際の給与量です。これは給与計画に基づいて行つたのでありますが、豚の健康状態や或は飼料の入手の都合で多少の相違はあります、例えば生後五〇日目に下痢を起したため、米糠と屑大豆を止め、ラデノクロパーは表のように少しずつ増量し、九月下旬になつてクロパーの伸びが少し悪くなつたので南瓜を与えた。この南瓜は切つて生で給与しました。

この表のようにラデノクロパーを補助飼料として濃厚飼料を給与すると蛋白質が必要量を上廻りますので、夏は補助飼料として馬鈴薯磨砕サイレーシを与えるべきであると感じました。

第1表 飼料給与と計画

月別	5	6	7	8	9	10	11
飼料名							
馬鈴薯							
米糠							
脱脂乳							
ラデノクロパー							
濃粉							
屑大豆							
魚粉							
配合飼料							

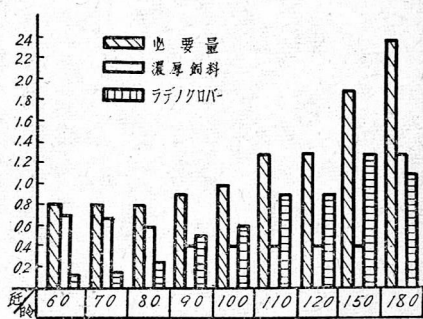
第2表 飼料給与量

飼料名	日 齢												
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
馬鈴薯 (kg)	0.8	0.9	0.65	0.47	0.45	4.5	0.25	0.25	0.25	0.9	0.5	7.65	7.65
米糠 (kg)	0.1	—	—	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2
脱脂乳 (kg)	0.08	—	2.25	1.5	1.5	1.5	0.75	1.75	0.75	1.5	—	0.24	0.24
ラデノクロパー (kg)	0.54	0.54	0.54	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	—	—	—	0.3	0.3
濃粉 (kg)	—	—	—	0.1	0.9	1.4	2.36	4.5	5.4	8.1	8.1	—	—
屑大豆 (kg)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
魚粉 (kg)	—	—	—	0.1	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—	—
F D 必	0.5	0.6	0.8	0.86	0.8	1.0	1.0	1.3	1.3	1.9	2.4	2.5	2.5
T D	55	88	103	109	90	114	132	181	177	296	243	284	254
E P	60	60	70	90	90	110	110	135	160	175	175	180	180

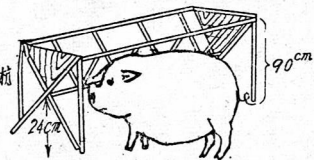
第二表の濃厚飼料となつているものの中には馬鈴薯や濃粉粕等も含んでおります。

第三表で解るようにラデノクロパーは生後六〇日から一〇日毎に増量し一一〇日で最高(必要量の)七割としました。
 与え方は草を刈つて来て与えたのですが最初は余り喜んで食べませんでしたので切

第3表 ラデノクロパーと濃厚飼料との割合



つて濃厚飼料と混ぜて与え、そして濃厚飼料の量を減じ草を食べるように仕向けた訳です。すると、九〇日頃頃から喜んで食べるようになりましたが、一〇〇日頃で濃厚飼料の量が非常に少なくなりましたので全量の三分の一位の草を切つて濃厚飼料と混ぜて与えました。



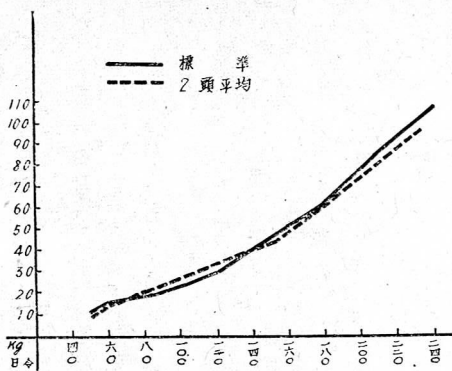
第1図

こうすると豚もある程度の満腹感を味わう事が出来ます。三分の二の草は第一図のような簡単な給餌箱に入れて与えると草も無駄に致しません。
 管理について申し上げますと、六月一〇日生後八〇日で豚舎の続きに五〇平方メートルの運動場を作り二頭一緒に飼い充分な運動と日光浴を与え、寝薬は常に取り替え、

三日に一回位ブラシをかけ清潔にし、常に健康状態特に糞の状態に注意しました。去勢は六月二〇日生後九〇日目に実施したが全く弱りは見えなかつた。また駆虫は六月二八日に実施したが下痢は一度も起きなかつた。

発育状態について申上げますと肉付きは濃厚飼料のものより多少劣りますが運動と日光浴を充分にしたので四肢の丈夫な胴伸びのよい腹部の特に発達した豚になり、草をやめて飼ひ直しをすると急激に肥り出し一月で二四・三疋も肥り、この増体量は標準より四・三疋も勝り、これで標準との差は五疋で大差なく発育したのであります。

第4表 体重増加比較



次に飼料費について申上げますと、ラデノクロバーの場合の飼料費六、七三〇円に対し馬鈴薯の場合八、一五六円となり、差額一、四一七円で(第五表参照)更に労賃等が

第5表 飼料費の比較

① ラデノクロバーを主とした場合

飼料名	所要量(kg)	FE	DTP(kg)	所要価格円
馬鈴薯	318.75	70.8	1.75	1,700
米糠	48.75	48.7	4.38	1,040
屑大豆	8.175	1.0	2.3	213
脱脂乳	30.000	5.0	0.95	275
配合飼料	11.25	1.1	2.2	375
ラデノクロバー	1,125	1.25	21.25	1,200
南瓜	135	15.0	1.275	440
魚粕	3.263	3.12	1.404	202
澱粉	139.875	98.0	0.147	297
合計	—	298.42	40.65	6,730

② 馬鈴薯を主とした場合

飼料名	所要量(kg)	FE	DTP(kg)	所要量	増加
米糠	48.75	48.7	4.38	1.04	—
屑大豆	23.55	32.0	7.36	6.82	4.69
脱脂乳	30	5.0	0.95	2.72	—
馬鈴薯	6.6	195.8	3.99	3.55	91.00
配合飼料	11.25	11.0	22.0	375.00	—
南瓜	135	15.0	1.275	1.44	—
魚粕	14.1	14.12	6.35	827.00	2.93
合計	—	299.62	26.5	8,156.00	—

①-② 差額 1,417円

第6表 収支決算内容

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
肉産物	29,904	飼料代	14,034
副産物	4,500	豚仔代	6,000
合計	34,404	保健費	400
		衛生費	4,200
		燃料費	340
		合計	24,970
		差引残高	9,430円也

加えられますので生産費ではもつと大きな差額となることとなります。

収支決算は第六表の通り差引金が九、四三〇円と割合多かつたのですが、これは飼料代の安価と肉の価格が高かつたことによるのであります。

以上結果からみて解るようにラデノクロバーを中ヨークシャー種に最高七割まで給与しても健康で順調に発育し、飼ひ直しをすることによつて標準と大差なく肉質のよい利用価値の高い肉豚ができることが確認された次第であります。しかも飼料代は大幅に節減された燃料代、労賃等も軽減されるという自信を得たのであります。そこで明年はこの規模を大きく労力の節減を目的として電牧による放牧を行い、濃厚飼料を少くして夏季間の蛋白質の過剰をなくし、燃料費節減を目的として馬鈴薯磨砕サイレージを給与する計画であります。

また養鶏にも十分な効果を確信し併せて研究しこの基礎の上に近い将来明るい楽しい生活のできる立派な酪農を築き上げることを私の第一の念願としている次第であります。(北日本酪農青年研究会員)

皇太子殿下、御成婚記念植樹の御申込みは早目に!!

皆様御承知の通り、われわれ国民待望の皇太子殿下御成婚の儀は四月十日と決定いたしました。

全国各地での盛典を御祝して記念植樹の計画が立案され実行されつつあります。皆様におかれても自家用果樹の植付けや、部落会等でも桜等の記念植樹が既に計画されている事と思います。

このときにあたり弊社においても心よりこの慶事を御祝上げるとともに皆様方の記念植樹計画に協力させていただきますつもりで各種優良苗木を豊富に準備いたしておりますので品切れとならぬうちに速刻御申込み下さい。

特に左記に掲げました品種は御成婚記念植樹用として特価にて提供いたします。尚大量の場合は特別価格で御用立いたしたいと存じておりますので御相談下さい。

その他苗木につきましても豊富に準備いたしておりますので御照会願います。(御申込みにより園芸カタログ無償送呈致します)

リンゴ各種(紅玉、旭、ス) 十本当り価格 七〇〇円

李後梅(各種) 六〇〇円

杏各種(一米内外) 五五〇円

ナナカマド 六五〇円

その他各種苗木格安照会 七〇〇円